

内水対策への取り組み

令和3年8月豪雨災害から1年

令和元年8月そして令和3年8月、2年間で2度に渡る豪雨災害により大町町は甚大な被害を受けました。

気候変動により、今後も想定外の災害が発生することが見込まれるなか、これから先、安心して大町町に住み続けられるよう、大町町において国や県、町が行っている様々な内水対策に関する取り組みを紹介します。



被災直後
大黒町周辺



復旧



被災直後
土場口付近



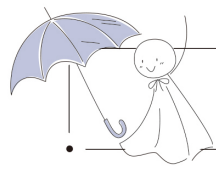
復旧



被災直後
大町自動車学校



復旧



【床上浸水ゼロの実現】を目指し…

大町町長 水川 一哉

令和元年8月28日、大町町は30年ぶりとなる大雨災害に見舞われました。当日の明け方から降った雨は、1時間最大98.5mm、3時間で220mmを超える大雨となりました。そして昨年、8月11日から降り続いた雨は、14日未明、1時間最大70mm、明け方の総雨量は600mmを超え、18日までの雨量は1035mmと記録的な大雨となりました。

この2年間で2度の大雨により甚大な被害に遭われた皆様に改めて、心からお見舞いを申し上げます。近年、気候変動による大雨がもたらす被害は全国各地に及んでいます。先般、「大町町の内水対策に関する取組」を策定し概要版を全戸に配布しました。

2度の大きな災害を踏まえ、この異常気象に対処すべく3つの柱を掲げました。

まず、大きな柱として、【守】町民の皆様の生命を守り、財産への被害を最小限に抑える取り組み、次に、【溜】ため池や、クリークの前落水により貯留ポケットをつくり流量を減らす取り組み、3つ目が【流】排水機場(ポンプ場)の機能強化や増設により溜まった内水を六角川に流す取り組み、この【守る】【溜める】【流す】3つの柱を基に、国(令和元年8月大雨に対応した激特事業、令和3年8月大雨に対応した新六角川流域治水プロジェクト)、県(内水対策プロジェクト)、大町町(内水対策に関する取組)、そして六角川流域の市町がそれぞれの取組みを徹底することにより、六角川上流域からの内水流入を抑制し、溜まった内水は排水する。加えて住まい方の工夫をすることにより、【床上浸水ゼロの実現】を目指していきます。

現在、できることから着実に進めてきていますが、まだまだ、道半ばです。一日でも早い実現に向けて全力を尽くしてまいりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。